

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

### 事業名 ぎふの農村でワーケーション推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内3173)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,500 千円 (前年度予算額：11,300 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,300	0	0	0	0	0	0	0	11,300
要求額	11,500	0	0	0	0	0	0	0	11,500
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルス感染症対策により、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が広がってきており、働く場所を自由に選択して働く人が増えてきている。このような多様な働き方の一つとして、ワーケーションという新しいライフスタイルが注目されているが、ワーケーションに対応した農泊施設が少ない。

一方、田園回帰の流れをうけ、週末に農業体験や農業ボランティアを行う都市住民が増えてきているが、そのほとんどが日帰り旅行であるため、農村での宿泊を推進することで滞在時間を増やし、より深い関わりを持った関係人口に誘導する必要がある。

### (2) 事業内容

農村でワーケーションを推進するため、誘客推進や情報発信、受入体制の整備を行う。

#### 【誘客推進】

- ・セミオーダー型のワーケーションプランの造成販売
- ・週末田舎人型ワーケーションプランの造成販売

#### 【情報発信】

- ・ワーケーション施設紹介サイトでの情報発信

#### 【受入体制の整備】

- ・ワーケーションセミナーの開催
- ・オンライン予約受付に向けた体制整備

### (3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

### (4) 類似事業の有無

有 ワークーション普及促進事業費、ワークーション対策事業費補助金、ほっと一息、ぎふの旅キャンペーン（観光誘客推進課）

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	64	評価会議
旅費	114	職員旅費等
需用費		
役務費	100	郵送・通信費
委託料	11,200	セミナー開催、モニターツアー企画、実施
使用料	22	会議室使用料
補助金		
その他		
合計	11,500	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画

### (2) 国・他県の状況

令和元年度に、ワークーション自治体協議会が設立され、198自治体（1道22県175市町村）が参加している。

### (3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の目標年はR7年度であるが、R5年度まで集中的に実施する。

### (4) 事業主体及びその妥当性

県全体の農村のワークーションを普及・啓発を目的とした事業であるため妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

休日に農村地域に滞在しながら仕事を行うワーケーションを推進し、農村地域の地域資源を活かした新たなビジネスの創出及び交流・関係人口の拡大による農村地域の活性化を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
ワーケーションに取り 組む施設数	—	14	10	20	30	47%
農林漁業体験者数	—	100	260	270	280	36%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2 年度	農村地域の新しいビジネスの創出として、自然豊かな農村地域の地域資源を活用した岐阜県ならではのワーケーションを推進するため、県内の農泊施設やキャンプ場などに対し受入体制を調査した。
令和3 年度	令和5年度当初予算にて追加  指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4 年度	令和6年度当初予算にて追加  指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	新型コロナウイルスの影響は続いており、テレワークなどの働き方が普及していきいている一方、令和2年度の県内農林漁業体験者数は前年から半減している。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	農村でのワーケーションという新たなニーズの開発にはつながっているが、新型コロナウイルスの影響による人流の抑制などにより、成果は限定的である。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	旅行会社による提案型のモニターツアーを実施することで、魅力的なモデルツアーが実施されており効率的である。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 観光地で実施するワーケーションとは違う、農村地域で行うワーケーションの魅力を多くの人に感じてもらい、農村との関わりを持つ関係人口の増加に結び付けていく必要がある。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ワーケーション実施者が取り組みやすいプランを提供し、体験者数の増加を図るほか、週末を農村でワークする新たなライフスタイルを提案することで農村の関係人口の増加を図る。
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	ほっと一息、ぎふの旅キャンペーン(観光誘客推進課)
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	旅行キャンペーンと合わせて実施することで、よりお得に農村地域でのワーケーションが体験できる。